

◆千束一里塚 (せんぞくいちりづか)

1990年に県史跡に指定された。一里塚は徳川家康が1604(慶長9)年、東海や北陸など主要街道の整備を将軍・秀忠に命じ、江戸日本橋を起点に1里(約3.9km)ごとに旅人らの目印として造らせた。広さは5間(9.1m)四方で、塚が崩れないようエノキなどが植えられた。福井藩でも結城

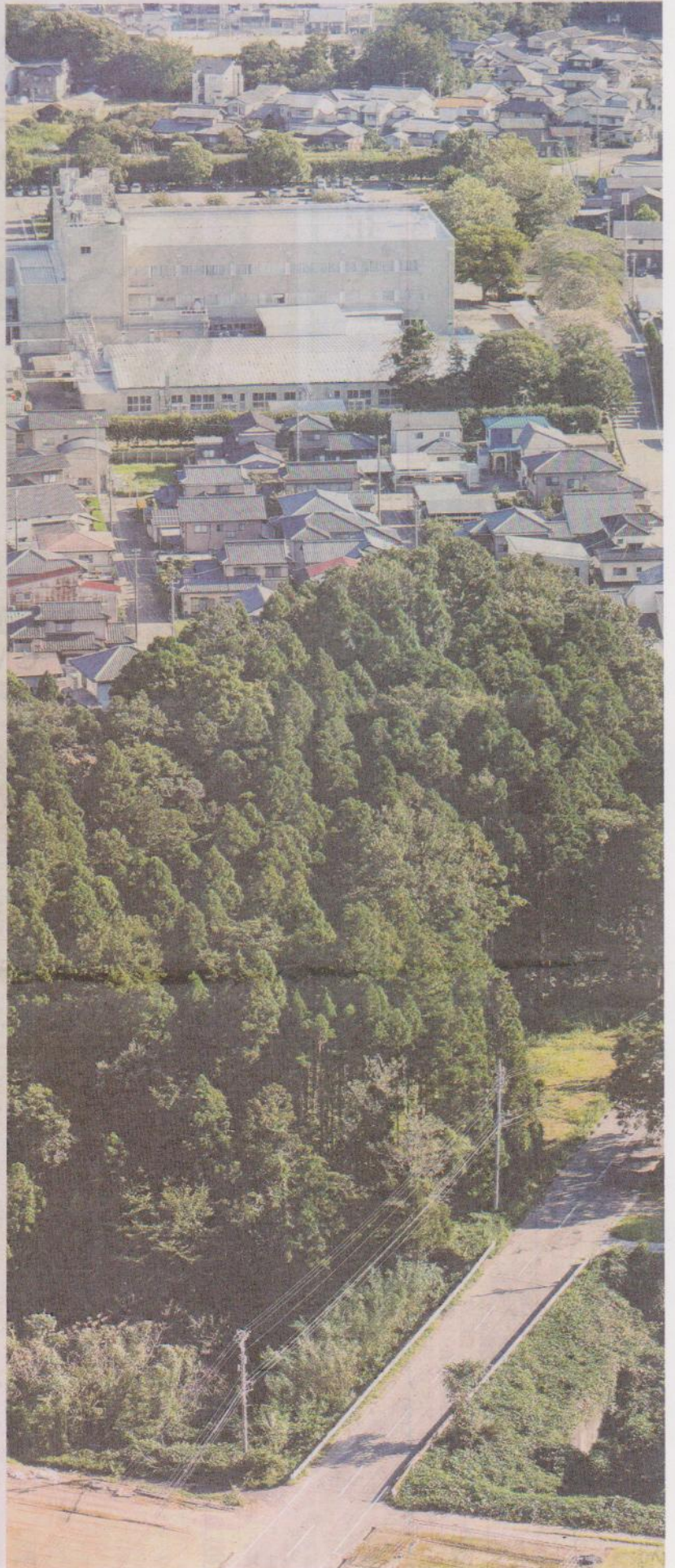
秀康が一里塚を造っていった。

塚は街道を挟んで東西両脇にあったが、1949(昭和24)年の道路拡張の際、東側の塚が取り壊された。当時は東側に2本、西側に1本のエノキが植えられていた。現在残るエノキは高さ約10m、幹の太さは約4.5m、枝ぶりは20mを超える。旅人らは木陰で休息し、熟した実を食べたという。



千束一里塚

あわらし市花乃杜3丁目



大きなエノキとともに残る千束一里塚。道を挟んで東側の塚は残っていない。あわらし市花乃杜3丁目



※ヘリのイラストは撮影した方向を示しています。



前あわらし市議

牧田孝男さん

千束一里塚にまつわる民話について語る牧田孝男さん=あわらし市花乃杜1丁目



千束一里塚保存会

川野寿明さん

千束一里塚を国の史跡にしたいと語る川野寿明さん=あわらし市山十薬一丁目

千束区の『宝』国の史跡指定に

あわらし市花乃杜3丁目にある千束一里塚には伝説もある八幡神社前の幅3mに満たない細い坂を上げる旧北陸街道(今も花乃杜2丁目)が道。そのまま県道を二つほど進めると左に大きなエノキが。一里塚の跡地を覆い、千束一里塚が姿を現す。うなぎを待たずして地元の人も千束一里塚保存会の川野寿明さん(68)が、お堂を造り「赤猫祭」は、各地に残る一里塚を訪れ「を行って」と民話本に「最も美しい」と、千束一里塚が書かれているが、牧田さんは「区に残る『宝』を自慢し、国「祭りが行われている話」は聞かない」と言っている。約400年の間に往来は人や馬から車へと変化した。千束一里塚のシンボルは、今もひっそりと街道を見つめている。

旅人を襲う大猫の伝説も残る